

# 令和7年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	31	学校名	茨城県立大洗高等学校				課程	全日制		学校長名	小貫 弘一					
教頭名	大沼 守正								事務(室)長名	岡部 久美						
教職員数	教諭	19	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	39
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計		クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	普通科	26	12	8	14	17	11			51	37	4				
	普通科音楽コース	5	22	4	21	6	19			15	62	3				

## 2 目指す学校像

- ・生徒一人一人の自主性・自立性を伸ばし、豊かな人間性と人格の形成を目指す学校
- ・社会人として必要な知識と教養を身に付けた人材を育成し、保護者や地域の期待に応え、地域とともに発展する学校
- ・普通科及び普通科音楽コースの生徒が、学習、文化・芸術活動等で相互に協力し合う活力ある学校

## 3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自主・自立の精神を持ち、豊かな人間性と望ましい人格を兼ね備えた人財</li> <li>②時代や社会のニーズを捉え、社会人として必要な知識と教養を身に付けた人財</li> <li>③お互いを思いやり、学習面や文化・芸術面など多方面において協力し合うことのできる人財</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高い目標に向けて幅広い知識や技術を修得し、上位学校への進学に対応できる学力を身に付けた生徒の進路実現 (進学系)</li> <li>②多種多様な資格取得を通して、社会における実践力・適応力を身に付けた生徒の進路実現 (資格系)</li> <li>③基礎学力の定着を重視し、地域社会のニーズに対応した知識と教養を身に付けた生徒の進路実現 (教養系)</li> <li>④音楽を通して文化的・芸術的な心身を育成し、関東・全国レベルの大会での経験を人生に活かすことのできる進路実現 (音楽コース)</li> </ul>
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力の定着を図りつつ、校内外の様々な活動に挑戦し、その経験を活かして高い進路目標を実現したい生徒</li> <li>②資格取得、生徒会活動、奉仕活動などを積極的に行い、自分の将来に活かしたい生徒</li> <li>③音楽が好きで、入学後に関東・全国レベルの大会で活躍を目指して日々努力し、その経験を将来に活かしたい生徒</li> </ul>

## 別紙様式 1 (高)

## 4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>入学してくる生徒は学習に対して苦手意識を持っていることが多い。また、基礎的な学習段階でつまづいてしまい、意欲的に授業へ参加する姿勢が失われてしまった生徒が複数いる。これに対して、少人数クラス授業、チーム・ティーチングによる授業を行い、きめ細かい指導を行うことで、授業への積極的な姿勢や基礎学力の定着に力を注いでいる。</p> <p>また、授業改善のための手立ての一つとして、ICTを活用し、言語活動を充実させつつ、生徒主体で活動する授業に取り組んでいる。</p>	<p>生徒の実態を教員が的確に把握し、指導方法や指導内容の創意工夫に努め、生徒一人一人の学習意欲の向上や基礎学力の確実な定着を図る必要がある。</p> <p>そのため、現在行っている少人数授業の指導形態などを工夫改善するだけでなく、積極的に自己研修を取り入れながら、ICTを活用したり言語活動充実のための取り組みをしたりするなど、教職員の指導力・技術力向上が課題である。</p>
進路指導	<p>令和6年度卒業生については、前年度に引き続き100%に近い進路決定率を達成することができた。</p> <p>就職に関しては、ここ数年の求人数は堅調に推移している。一方、本校の就職希望者の就業意欲は以前に比べて上昇傾向にある。しかし、職業に対する意識が不十分なまま、就職活動期を迎える生徒も散見する。</p> <p>進学に関しては、目的意識を明確にしている生徒が多く見られる。入試形態として学校推薦型選抜、総合型選抜による受験が大半である。</p>	<p>生徒が早期に進路目標を明確に持ち、その実現を意識した学校生活を送れるよう、三年間を通したキャリア教育の充実を図る必要がある。</p> <p>就職指導では早い段階から望ましい勤労観を育む取り組みや、企業研究、求人開拓等をさらに推進する必要がある。</p> <p>進学希望者に対して進路目標の実現、特に国公立大学への希望者に対して合格者を継続して出せる組織的な指導体制を構築することが課題である。</p>
生徒指導	<p>普通科の生徒は和やかな雰囲気で学校生活を送っており、音楽コースは賑やかな雰囲気です学校生活を送っている。</p> <p>きめ細かな生徒指導、親身な生徒支援を組織的、計画的に行い、プロアクティブな視点で生徒の自己指導能力の育成を図っている。</p> <p>「ダメなことはダメ」を合言葉に問題行動等に関しては毅然とした態度で指導を行っている。</p> <p>生徒の悩みに関しては、SSWやSCを活用し、支援方法及び支援体制を確立している。</p>	<p>家庭と連携しながら、生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解に基づく指導・支援を引き続き行うことが求められる。</p> <p>問題行動等に関しては必要に応じて外部機関と連携を図り、早期に解決できるよう努めたい。</p> <p>生徒の状況把握の一つとして一人一台端末を活用した「心の健康観察」に関しては、より効果的な活用となるよう今後修正改善を模索していく。</p>
特別活動	<p>学校行事やボランティア活動などの様々な活動に対して、生徒会を中心に、生徒が主体的に取り組んでいる。</p> <p>マーチングバンド部は、地域社会で広く学習成果を発表するとともに、全国大会において最優秀賞を受賞するなど、積極的な活動を展開している。</p> <p>放課後サークル活動により、多くの生徒が部活動・同好会に所属して充実した学校生活を送っている。</p>	<p>放課後サークル活動により多くの生徒が参加できるよう、指導方法・内容の改善を行い活動意欲の高揚を図るとともに、指導体制の整備に努めたい。</p> <p>また、学校行事に生徒の意見をより反映させ、参画意識を高めるとともに、行事を通じて社会性や協働力の育成につなげたい。</p>
働き方改革	<p>校務分掌、多様化する生徒への対応、授業準備、小テストの作成・採点等のために、勤務時間内に業務を終えることができない教員が散見される。また、入学者数の減少に伴う、教員減の影響により、教員の負担が増加傾向にあり、業務が特定の教員に偏る傾向にある。</p> <p>※令和6年度の時間外在校等時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均時間 24時間58分(県全体 22時間55分)</li> <li>・月平均45時間超過者割合 21.5%(県全体 12.4%)</li> <li>・月平均80時間超過者割合 5.2%(県全体 1.3%)</li> </ul>	<p>教員の業務の平準化に向けて、校務分掌の見直し(統合)や業務の精選に努め、全職員で業務を分担し指導する体制の構築が課題である。</p> <p>生徒の多様化に対応しつつ、効果的で効率的な指導を心がける必要がある。</p> <p>時間外在校等時間については、どの項目も県全体平均を上回っていることは問題である。</p>

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

1	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚及び人間関係づくりを指導、支援する。
2	学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。
3	生徒一人一人の資質・特性にあったキャリア教育を推進する。
4	特別活動、放課後サークル活動の充実を図る。
5	地域との連携を深め、地域に開かれた学校づくりを推進する。
6	生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚及び人間関係づくりを指導、支援する。	①規則正しい生活習慣を確立させるとともに、問題行動等の未然防止、TPOに応じた身だしなみとなるよう指導する。 ②生徒の共感的な人間関係を育成し、他者理解に基づき相手を互いに受容することができるよう支援する。
2 学習意欲を高め、基礎学力の定着を図るために積極的に授業を改善する。	③基礎的・基本的内容を重視した教科指導の充実を図り、基礎学力の向上・定着に努める。習熟度別授業、少人数制授業、ティーム・ティーチングを積極的に取り入れ、全教科においてICTの活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育て、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ④生徒の実態に応じた指導内容の検討や副教材を精選し、生徒の学習意欲を引き出す。結果として生徒の授業に対する満足度の平均値「3.3」を目標にする。 ⑤一般教養及び基礎学力を定着させる。
3 生徒一人ひとりの資質・特性にあったキャリア教育を推進する。	⑥進路相談室(学習室)の効果的な利用を促進するとともに、資料コーナーの充実や各種ガイダンスを通して、生徒及び保護者への情報提供に努める。 ⑦早期に進路目標を明確にさせるとともに、進路希望調査や検査等を活用して生徒の特性を把握し、生徒一人ひとりの希望に応じた的確な進路指導の充実を努める。 ⑧個人面談やガイダンスを計画的に実施するとともに、生徒個々の進路目標実現に向けた指導力の向上に努める。
4 特別活動、放課後サークル活動を通じて生徒の主体性・社会性を育成する。	⑨放課後サークル活動の活性化を通じて、生徒の主体性と多様な興味・関心の発展を支援する。 ⑩生徒会・学校行事・ホームルーム活動の質を高め、生徒が自ら考え、仲間と協働する経験の深化を図る。
5 地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	⑪学校に関する様々な情報について、各種メディア(ウェブページ、SNS、町内広報誌、新聞等)を活用して保護者や地域住民に広報し、学校の教育活動への理解を図る。 ⑫教務部広報広聴係が主体となり、学校評議員や地域住民からの意見を聴取し、適切な対応を行い、地域に密着した学校づくりの一層の推進を図る。 ⑬学校行事への地域住民参加及び地域行事・活動等への教職員、生徒の参加を推進し、地域との連携体制を構築する。
6 生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。	⑭積極的な学びに対応するために、授業公開や授業研究、教職員研修を積極的に行い、質の高い教育の提供を目指す。 ⑮業務負担軽減に向け、全教職員が業務を分担しながら積極的に学校運営に参加できる体制を構築する。 ⑯効率的な指導や業務改善を図り、時間外在校等時間を積極的に減らすよう努める。